

【目次】

1. アーカイブ No.7

連載「日本労働会館物語」第 4 回 2010.02.25 発行の第 5 号に掲載

2. 7/5(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・近畿エリア結成 10 周年記念講演 89 名(大阪市)
3. 7/5(水) JAM 北関東栃木労使 20 名
4. 7/6(木) 出張講演・UA ゼンセン・ヨークベニマル労働組合・241 名(郡山市)
5. 7/24(月)～25(火)出張講演・UA ゼンセン・ダイエーユニオン中執合宿 14 名(成田市)
6. 7/28(金) 日本労働ペンクラブ役員・幹事 13 名
7. 夏季休館のお知らせ(2023.8.11～8.16)

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1.アーカイブ No.7

連載「日本労働会館物語」第 4 回 2010.02.25 発行の第 5 号に掲載

連載「日本労働会館物語」第 4 回

<ユニテリアンと矢野文雄（矢野龍溪）その 2>

前回は矢野文雄が『郵便報知新聞』紙上でユニテリアンを日本に紹介したこと、また英国ユニテリアン協会（教会）に宣教師の派遣を要請したことを記述しました。今回は矢野のユニテリアン宣教師派遣要請と、その顛末について『福沢諭吉とユニテリアン』（土屋博政慶大名誉教授著）を参考に記述します。

矢野が行った宣教師派遣要請を最初に確認できるのは、英国ユニテリアン協会機関誌『インクワイラー』1987 年 1 月 22 日号で、記事によれば矢野は「当時滞英中の徳川義礼侯爵を通じて、日本で今自分が出している新聞にユニテリアン主義の紹介をしたところ好評を博したので、ユニテリアン宣教師を日本に派遣して欲しい」と要請したとされます。

また、同年 5 月 28 日と 6 月 25 日の『インクワイラー』誌には再度、矢野の宣教師派遣の記事が掲載されます。二度目の矢野の手紙を持参したのも徳川義礼侯爵で、この手紙で矢野は「現代の知的で教育ある日本人は、ユニテリアンでないキリスト教徒にはもはや耳を傾けなくなっている」と述べています。矢野の主張の背景には、「当時の日本の知識人の多くが、西洋における物質文明の発達の背後には、精神文化としてのキリスト教があると考えていたが、宗派的で、日本の文化や宗教を認めない正統派キリスト教に辟易していた」という事情があるようです（前掲書）。

英国ユニテリアン協会は「東京にミッションを設立するために、少なくとも一人の牧師を送る」決議しますが（『インクワイラー』誌 7 月 2 日号）、その後に矢野の宣

教師派遣要請を断ります。背景に①資金面の制約、②正統派キリスト教との軋轢の回避などがあったようです。

『インクワイラー』誌 1887 年 10 月 29 日号は、宣教師派遣の件が最終的に却下されたことを伝えています。記事によれば「既に日本に派遣されている英国の正統派キリスト教宣教師が伝えている正統主義からユニテリアン主義に改宗させるために、あえて自分たちの宣教師を送るよりも、日本の若者にマンチェスター・ニュー・カレッジで神学を学んでもらい、彼らが宣教師になって自国民を啓発する方法を採るほうが良い」ということになったようです。この決定により「後にユニテリアン教徒になった永井柳太郎や内ヶ崎作三郎らがマンチェスター・ニュー・カレッジに給費留学生として留学」することになります（前掲書）。英国ユニテリアン協会の代わりに宣教師派遣に踏み切ったのが、米国ユニテリアン協会 AUA で、その招請に動いたのが明治政府の高官、森有礼・吉田清成・金子堅太郎です。

(連載第 4 回終り)

参考文献：『ユニテリアンと福沢諭吉』・「社会運動の源流、ユニテリアン」（改革者 5 月号）・土屋博政

2. 7 月 5 日(水) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・近畿エリア結成 10 周年 記念講演 89 名(大阪市)

ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の概観解説を受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。その上で、流通労働運動の歴史概観を学習し、政治の必要性と選挙に勝つことの必要性を学びました。そして政策課題とその克服について労働組合のあり方と次世代に期待することを学んだ。

3. 7 月 5 日(水) JAM 北関東栃木労使 20 名

JAM 北関東ブロック栃木県の労使 20 名が 7 月 5 日(水)、友愛労働歴史館を見学。ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を視聴し、熱心に資料館を見学しました。中でも、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」と鈴木文治(人間性と職業能力の向上)・松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージなどに関心と興味を引いた様子でした。

4. 7 月 6 日(木) 出張講演・UA ゼンセン・ヨークベニマル労働組合・241 名(郡山市)

ヨークベニマル労働組合の支部長会議に、各支部の支部長・副支部長、加えて中央執行委員合計 241 名が参加した。大テーマは①労働組合と政治の必要性②産別と単組の役割と存在意義③リーダーに求められるものについての講演内容です。友愛会、同盟の基

本理念や「自由にして民主的な運動」と鈴木文治(人間性と職業能力の向上)・松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージが通底し、今の活動がある。生産性運動の歴史的進化と労働組合の変化要因と不変性のミックスバランスの重要性。リーダーの役割と責任とあるべきリーダー像について講演を行った。

5. 7/24(月)~25(火)出張講演・UA ゼンセン・ダイエーユニオン中執合宿 14 名 (成田市)

7月26日(月)、UA ゼンセン・ダイエーユニオンの中央執行委員(専従者)14名が、講義「日本労働運動の100年余」を受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の講演を120分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後は、懇親会が開催され、一層の議論を深めた。

6. 7/28(金) 日本労働ペンクラブ役員・幹事 13 名

7月28日(金)、日本労働ペンクラブの役員・幹事で構成される東西合同幹事会(東京本部と関西支部)の皆様13名が来館・見学。2022年1月に日本労働ペンクラブの労働遺産認定事業の第一号に認定された「日本労働運動発祥の地に関する記念碑と遺構」を見学。当館常設展「日本労働運動の100年余」、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を受け熱心に見学された。

7. 夏季休館のお知らせ(2023.8.11~8.16)日(木)

①友愛労働歴史館の8月の臨時休館日

夏季の8月14日(月)と16日(水)を臨時休館とします。

2023年8月11日(金)~2023年8月16日(水)の期間、友愛労働歴史館は休館とします。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝2-20-12

友愛会館8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedokishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedokishikan.com>

-----**惟一館から128年、友愛会から110年**-----